

令和2年 7月16日

熊取町教育委員会 様

教育委員会評価委員会委員 大野 廣 介
教育委員会評価委員会委員 岸 本 敬 仁

熊取町教育委員会活動の点検及び評価（令和元年度事業対象）
に対する意見書

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、熊取町教育委員会が、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うにあたり、次のとおり意見を述べる。

意 見

熊取町教育委員会活動の点検・評価報告書の作成に際し、教育委員会事務局職員より聞き取りを行った。令和元年度は、新型コロナウイルス感染症のため、学校教育、社会教育の両分野における事業実施に際して、これまで経験したことのないような大きな影響を受け、一部の事業では十分な成果を上げることができなかったところであるが、全般的には、現状と課題を見据えつつ、積極的な取り組みを行うなど、現状に止まることなく課題解決に向けた新たな事務事業を適時適切に進めていることが十分に理解できたところである。

今後も、本感染症への適切な対応を図りながらの事業実施を余儀なくされるが、下記の点に留意し、創意工夫のもとに取り組んでいただきたい。

記

- 1 全体として、教育委員会が様々な取り組みを進め、着実にその成果を上げていることが理解できる。なお、各点検評価項目の取組結果から、今後の課題や方向性をより一層明確化していくために、全体を通して、より客観的に評価しやすい内容でまとめるようにされたい。
- 2 今回の新型コロナウイルス感染症への対応として、授業や保護者への説明会をオンラインで実施している学校・自治体等が見受けられる。
熊取町においても児童・生徒や保護者に対する一定水準のオンライン対応が可能となる環境整備と効果的な活用を早期に実現し、ICT環境の充実を図られたい。

- 3 外国青年英語指導助手招致事業については、熊取町では、平成30年度からALTを1名増員して6名配置とし、とりわけ、各中学校への1名配置は府内でも高い配置率である。また、「くまとり英語村」の開催なども含めて、使える英語を身につけさせる取組みは大きく評価できる。今後も、ALTを活用した授業の工夫など、児童・生徒の英語力を高める取組みを進められたい。
- 4 初任者への接遇に関する研修の充実や、次代の管理職の担い手となる中堅教員自主研修受講者の増員に努め、教職員全体の資質・能力の向上に努められたい。
- 5 スクールソーシャルワーカーについて、小学校を中心に5名を会計年度任用職員として配置しているが、小学生から中学生になっても引き続き関わったり、支援の必要な子どもは、その親の支援にも力を入れる必要があることも考え、継続性と責任感をもって取り組める体制づくりを検討されたい。
- 6 中学生の放課後の居場所づくりと学習支援を兼ねた「中学校放課後自習室」については、煉瓦館の自習室の活用を始めるなど工夫して実施いただいている。青少年の成長の過程での有意義な取組みであるので、根気強く、さらに工夫して取り組んでいただきたい。
- 7 熊取図書館について、町立として全国でもトップレベルの蔵書冊数であることは誇れる面であると評価できる。
その蔵書については、シリーズ物や続き物の欠号がないよう購入するなどして、蔵書管理の強化を図られたい。また、除籍した資料については、リサイクル事業を継続し、資源の有効な活用を図られたい。
- 8 昨年、熊取町婦人会が解散し、また、子ども会や長生会などの町の連合会についても加入団体が少なくなりつつある。このような地域コミュニティ団体の組織力の低下は地域福祉の弱体化につながることから、熊取町としてもこうした活動に対して、側面からの支援を行われたい。
- 9 4つの大学が熊取町に立地するという特性を活かして、各大学に対してより積極的に働きかけるなど、さらなる地域連携の強化に努めていただきたい。